

2378  
91

曲亭馬琴老人文方



# 視藥霞報條

弘所

江戸通油町

鶴屋喜右衛門製



先生方よりせり作一切おすやい

天保八年酉の春再板此書  
近年世に紛れい同各号等由  
相見ると各号等と皮の上取等い



舊衣を温とあて橋と知るの田舎見の獨案内得く現貨を弄びて志を喪  
ふ生好事家の痴僻をこれあし徳世渡りの為不幾松ゆる作をあさるを  
多十種の再板寛政の年間予が筆をきみの戲作を今世に人の知らざるに  
最惜とて出さし鶴屋が頼み不との板元予の沙汰す小籠  
刻と心おある書賈等と同トからぬをきりぬとてさうともあろと黒人の画工  
任しく今様画を易品に替れも替らぬ作者の半仙疝氣の腰を伸しく  
札小倚て視るが蘇木の霞段の引札係在も役あたるとる春の長親小敷主人  
とて時の好稱んやかゝるいけむ飲知ざりし世と隔る風流才子の戲裏まを  
讀む心地とてさういふ浦嶋の七世末孫小相生の松小雜まる桜木の二度  
多の巻の事始る言まらばやと哄誘されて禿る筆と添る而已

天保八年丁酉春正月吉日

散仙子馬琴新序





三代相傳  
名賢藥

# 梅玉芝翫湯

九目ある大極  
一枚看板  
十包入一箱給金千両  
加賀屋歌右衛門製



このおみせの神仙路考  
油とりの神代でわろ  
けれど今も板つたあまの  
下うごかされたりとんえと  
画工のあつたはりのんまを  
いふのうたのうたの  
かたはりのんまの  
たてのうたのうたの

女中



この  
おみせの神仙路考  
油とりの神代でわろ  
けれど今も板つたあまの  
下うごかされたりとんえと  
画工のあつたはりのんまを  
いふのうたのうたの  
かたはりのんまの  
たてのうたのうたの

梅玉芝翫湯



オイランダ  
内股膏薬

弘所北州三浦  
高尾氏



まぐより御披露  
仕ゆあらんご  
うご股ごう薬の  
きハオガミンスと中庄  
かハ受授の  
きき受授の  
相傳のゆ業あり  
膏業ハみす  
紙へのてその  
ふららう  
そはらう  
わらう

おのや  
を  
たう  
あは



ふらう  
ららう  
なう  
つかう  
ええ  
ふらう  
ららう  
なう  
つかう  
ええ  
ふらう  
ららう  
なう  
つかう  
ええ

たか  
あは  
あは  
あは

あは  
あは











八分地藏丸

再入庵无心老人製法

借金つゝたゞの流文  
 借りてはけの利不足  
 さめられのまへるびのまゝらぬ  
 あつて廻後する人つゝは世々を  
 用ゆるやうくこの不便をわたり  
 家内の元氣を益とせしめ  
 そのく八分丸と名づるごと  
 むりさのく庵無心老人地蔵の  
 くりよなるやうくをせしめ  
 より世々をせしめり  
 救ふとく七来のぬのふれぬ  
 病ふんどくあらざる  
 儉素の



のみそ後  
 せいひが  
 こころり  
 まして  
 りつろ  
 大さの  
 つうじが  
 ませぬ

あつてはけの利不足  
 さめられのまへるびのまゝらぬ  
 あつて廻後する人つゝは世々を  
 用ゆるやうくこの不便をわたり  
 家内の元氣を益とせしめ  
 そのく八分丸と名づるごと  
 むりさのく庵無心老人地蔵の  
 くりよなるやうくをせしめ  
 より世々をせしめり  
 救ふとく七来のぬのふれぬ  
 病ふんどくあらざる  
 儉素の



有錢本領の司  
 況は世間射人

かゝりてはけの利不足  
 さめられのまへるびのまゝらぬ  
 あつて廻後する人つゝは世々を  
 用ゆるやうくこの不便をわたり  
 家内の元氣を益とせしめ  
 そのく八分丸と名づるごと  
 むりさのく庵無心老人地蔵の  
 くりよなるやうくをせしめ  
 より世々をせしめり  
 救ふとく七来のぬのふれぬ  
 病ふんどくあらざる  
 儉素の

のみそ後  
 せいひが  
 こころり  
 まして  
 りつろ  
 大さの  
 つうじが  
 ませぬ



# 唯二太太香

日本一社勢州山田氏製  
日本一社勢州山田氏製  
日本一社勢州山田氏製

此香の神秘不思  
後の良法ありて世のそ  
あるところの奇特あり  
二月二百粒二百粒  
用ひて心身を清  
けしひて心を清  
然と心を清く  
かへて家内はひま  
すこやふし  
るりよし  
用也べし奉納あはて  
かぞへて



おたけのうた  
おたけのうた

東邦本末園字通校釋

佛社芳州集 全三冊

佛社叢書集 全三冊

佛社今四歌仙全一冊

東邦本末園字通校釋

佛社今人附合集 全四冊

新刊板

佛社今人叢句集 全二冊  
素酉年早春出版

書肆

江戸通油町

仙鶴堂 新屋森右衛門藏

関八州の各所  
ありては先づその人の附合集  
ありては先づその人の附合集  
ありては先づその人の附合集

関八州の各所  
ありては先づその人の附合集  
ありては先づその人の附合集

関八州の各所  
ありては先づその人の附合集  
ありては先づその人の附合集

関八州の各所  
ありては先づその人の附合集  
ありては先づその人の附合集

関八州の各所  
ありては先づその人の附合集  
ありては先づその人の附合集

関八州の各所  
ありては先づその人の附合集  
ありては先づその人の附合集

関八州の各所  
ありては先づその人の附合集  
ありては先づその人の附合集

関八州の各所  
ありては先づその人の附合集  
ありては先づその人の附合集

関八州の各所  
ありては先づその人の附合集  
ありては先づその人の附合集

雲乃引札下



馬琴作

仙鶴堂

國芳画  
丁酉孟春  
舊本再版

0





# 曾保痢木瓜丸

兄弟包 曾我十粒入  
弟包 同 五粒入

此の丸は

九



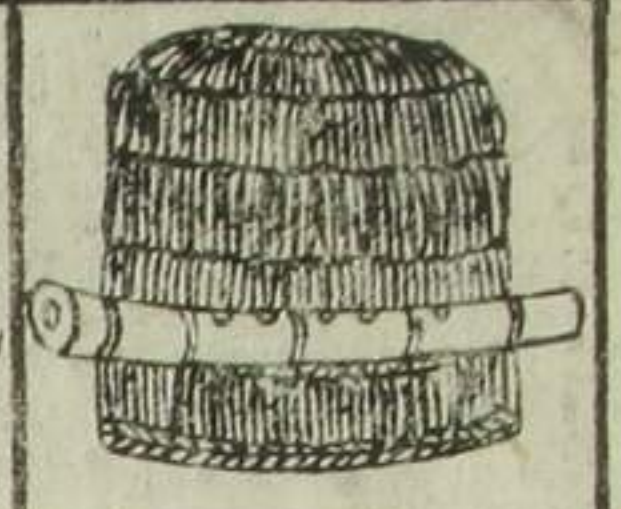
右の平下木  
木丸丸丸丸  
明神の  
神託の  
よみて毎  
妻の内ニ  
弘め申し

此の丸は  
曾我十粒入  
弟包 同 五粒入  
補劑て  
素向  
内經を



此の丸は  
木丸丸丸丸  
明神の  
神託の  
よみて毎  
妻の内ニ  
弘め申し

此の丸は  
曾我十粒入  
弟包 同 五粒入  
補劑て  
素向  
内經を



天蓋散

# おむすの妙業

みやうやく

忠臣藏通

九段目語町  
竹田出雲掾製



てんがい散  
さうの  
か古川幸草の  
のまるごの  
茶品と撰  
九だんめ雪の  
ゆるをすめてこれを  
製ま第一尺の  
移を出してさる月  
よりむすの  
とさめお石のせせと下る  
たとへのある所志うとも  
とより見物の御へかるとひとく

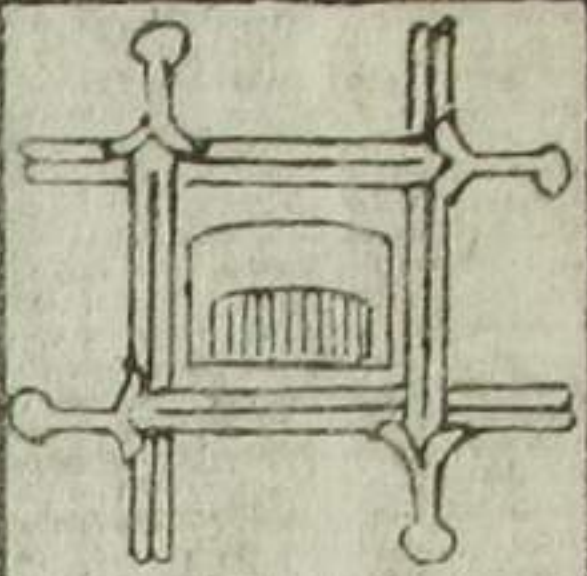
おむすの妙業の  
余業のちとちりられて  
おむすの妙業



麻のあつ  
小の  
まの  
の  
居の  
の速る  
三の  
お  
り  
の  
各人の  
り  
功

かこ川  
あん上  
おむすの妙業  
おむすの妙業





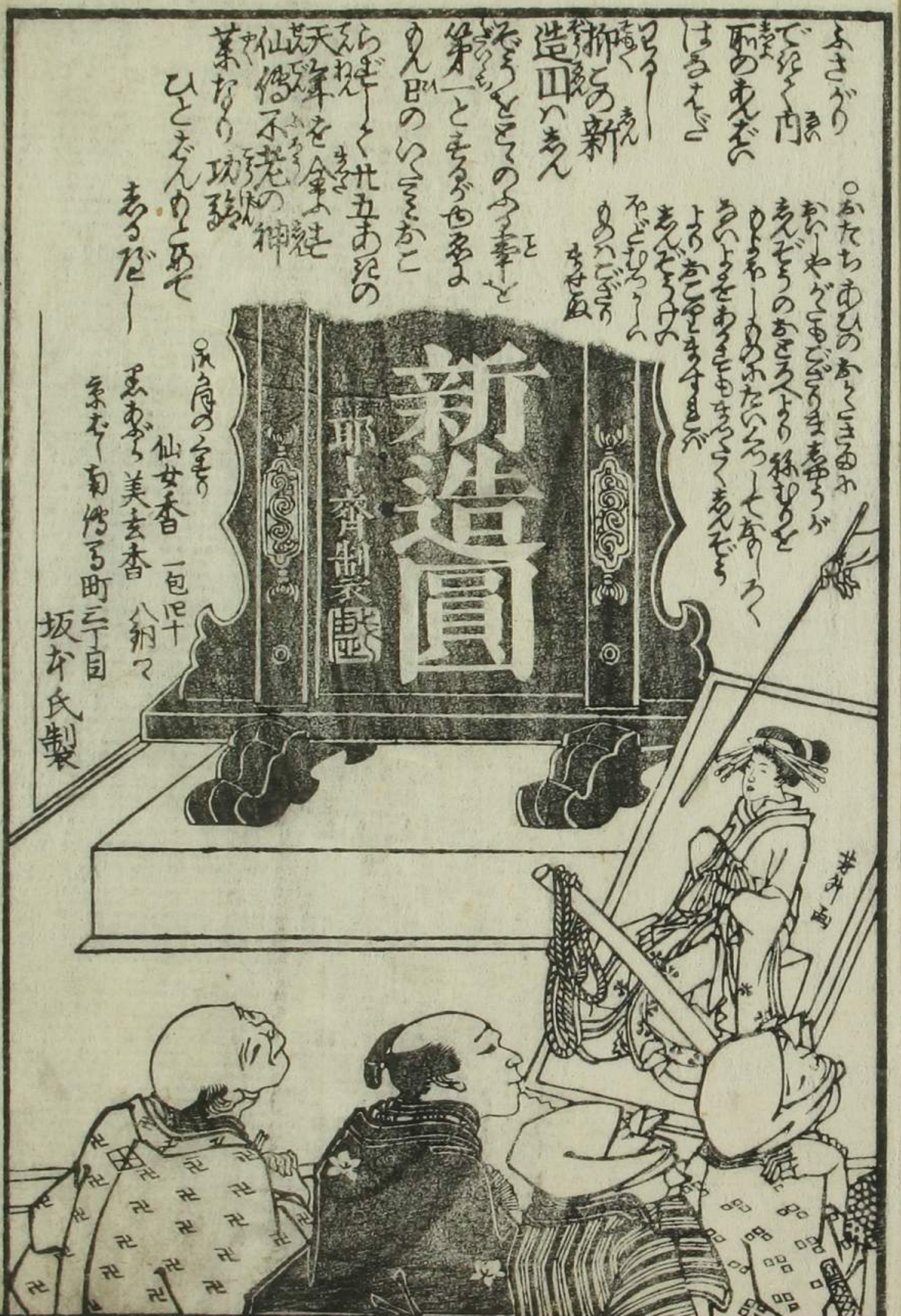
# 眠參新造圓

壹劑金一步  
取次所何も茶屋有之  
但下らんふ  
りちもべし  
りやこれあり



腰の二徑の  
腹の骨の  
よく容れ  
この肺肝二  
階の  
めぐるま  
考んぞう  
下とびら  
佐けぞ  
大ぞう  
たちまち  
大町傾の

考んぞうなる  
ふりてうへ  
これがたまら  
さうさ  
客降水が  
へつてふ  
ころうけがひ  
せんこのち  
あまのり



ふまがり  
でゆる内  
取の吏ぞ  
はるまご  
新造圓の  
第一とまご  
ゆん田の  
らげとく  
天年を  
仙傳不老  
茶なり功  
ひとをん  
あるだ

○おたちあひの  
あやぐも  
まごの  
ゆん田の  
らげとく  
天年を  
仙傳不老  
茶なり功  
ひとをん  
あるだ

新造圓  
耶齋製  
仙女香 一包四十  
美女香 八柄  
坂本氏製





# 子金丹の業丸業

せんきん ト ひら  
又節の一廻り  
二百銅  
附薬天神香一會拾交

小児七八歳より  
二月より午お  
お下分くこの  
くまりと用ひ  
三月年があひ  
たまき服用  
まれいあつら  
ほるこあひら  
うふりて四  
くくる文字を  
見上げ生涯  
あまめつこ  
あつらひる

恒辰  
今月  
春風  
一時吹



○かけて  
あつらひる  
あまめつこ  
あつらひる  
あまめつこ  
あつらひる

此のまのりもち  
あつらひる  
あまめつこ  
あつらひる  
あまめつこ  
あつらひる  
あまめつこ  
あつらひる  
あまめつこ  
あつらひる

梅  
あまめつこ  
あつらひる



あまめつこ  
あつらひる  
あまめつこ  
あつらひる  
あまめつこ  
あつらひる

百韻

**俳諧をせと膏丹**

弘所 本家  
 荒木田守武製  
 芭蕉庵桃青調合



巻百韻より取らば  
 まゝ御合の御合  
 ありとあるま  
 去とす



一 屋敷水辺山歌  
 さりて  
 生刺三句  
 向あ  
 け外さ  
 あまの

この山歌は...  
 曲亭主人跋

四雅文子...  
 古人の

月夜を  
 びん  
 くら

家傳神女湯一包代百州  
 精製奇應丸 大包代金武朱  
 熊胆黑丸 子一包代五ト  
 婦人つむりの妙薬 一包六十支  
 製菓茶四谷 坂上東側滝澤氏  
 目録竹久 たるの中の中しあり  
 弘野元極田中坂下南御出程は保氏



馬琴作

國芳画

天保八年丁酉初春新彫

倭紫田舎源氏

当年北二編より 九六編まで 開板おかしき 笑談を 経奉希の

一筋道雪眺望 全四冊

歌川国芳画

森羅万象心音氣 全四冊

歌川国芳画

琴声女房形氣 全四冊

歌川国貞画

柳亭種彦作

歌川國貞画

飛翼連理恋の櫻樹

歌川國芳画

歌鯉差身業物 全四冊

歌川國芳門裡画

種彦の書

貞秀画

昔少焚火 二冊

茶室のいろは 二冊

美艶仙女香 四十八銅  
 黒油美香 三十四銅  
 坂本氏製



書物錦繪 團扇地紙 問屋

江戸通油町 鶴屋喜右衛門

